

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第13回）

議事メモ

日 時：令和6年3月4日（月） 15:00～16:30

場 所：安保ホール 501 会議室

【議事】

1. 議事

1. 第12回委員会での指摘事項と対応方針
2. 環境モニタリング調査報告（前回委員会からの更新点）
3. 美和ダム湖内堆砂対策施設 試験運用結果の総括

【議事要旨】

1. 第12回委員会での指摘事項と対応方針

事務局説明 ■ これまでの委員会での指摘に対する対応を説明した。

主な意見等 ● 特に意見なし。

2. 環境モニタリング調査報告（前回委員会からの更新点）

事務局説明 ■ 令和5年度に実施した試験運用結果について、前回委員会から更新した部分を説明した。

主な意見等 ● 出水規模によっては、比高の高いところに土砂が堆積して樹林化の要因となる場合も懸念されるため、今後の水国におけるモニタリング時の留意事項としておくとよい。

3. 美和ダム湖内堆砂対策施設 試験運用結果の総括

事務局説明 ■ 試験運用の結果の総括について説明した。

主な意見等 ● 土砂を流すことによる環境改善の面も積極的に発信するとよい。

● スtockヤード運用のタイミングについては、今後も結果を見ながら改善させていくことが重要である。

● 中小規模程度の出水でも積極的にStockヤードを運用することが望ましいので、運用データを蓄積させることが必要。

● p.12の底生動物について、ダム下流はそもそも造網型が優占する傾向にあるが、必ずしもその状態が望ましい姿であるというわけではない。現在の資料の書き方では、造網型の優占が望ましい形ととられかねないので、記述方法

は検討すべきである。

→とりまとめにおいて修正する。

- 現段階ではストックヤード運用による短期影響は見られなかったということだと考える。
- 長期的に排砂が行えなかった場合が生じると、ヤード内土砂の固結や、変質が生じるかも知れない。そのため、できる限りストックヤード土砂を新鮮なうちに排出し回転させることが望ましい。
- スtockヤード運用による影響とは直接関係のない項目ではあるが、外来種のみズワタクチビルケイソウは、魚類や景観への影響もあると考えられる。今後のモニタリングには含まれていないが、生育状況については留意することが望ましい。

4. 委員会の総括

- 土砂を効率的に下流に流すことを念頭に、土砂バイパス、ストックヤードの運用方法を今後もさらに改善していくこと。
- 美和ダムに加えて、下流の高速ダムの通砂操作（スルーシング）との連携も進めること。
- 砂を流すことによる環境影響の改善も考えられる。関係機関とも連携し、三峰川、天竜川の環境改善を目指し、流下させる土砂の量に加えて、粒径の検討も進めること。
- 土砂バイパス運用後のすすぎ放流や、清水バイパス活用など、環境負荷を軽減するような運用についても検討を継続すること。
- シルトを流すことにより高標高の砂州の樹林化進行も想定されるため、引き続きモニタリングを継続すること。
- スtockヤード運用による影響とは直接関係はないが、外来種である、みズワタクチビルケイソウの侵入が確認されているため、河川管理、ダム管理の一環として、引き続きモニタリングすること。

5. 委員会の閉会

- 以下の2点について了承された。
 - ・ 湖内堆砂対策施設（ストックヤード施設）は令和6年度より本運用に移行すること。
 - ・ 本運用に移行することにより、委員会規約に基づき本委員会は終了すること。